

令和元年度第1回岡崎市観光基本計画推進委員会 議事録

日 時 令和2年2月25日(火)15時00分～16時30分
場 所 岡崎市役所東庁舎6階 601号室
出席委員 高橋一夫、氏原久元、浅野直宏、竹内博剛、
野村顕弘、五反田智美、大野敏夫
欠席委員 新家智明、山中賢一、西尾孝志、天野裕、長瀬正明
オブザーバー 鈴木 隆(愛知県観光協会・専務理事)、石原嘉明(岡崎市観光協会・
業務部長)
事務局 植山経済振興部長、高橋観光推進課長、観光推進課職員3名
傍聴者 なし

次第

- 1 開会
- 2 経済振興部長挨拶
- 3 新委員紹介
- 4 オブザーバー紹介
- 5 事務連絡
- 6 委員長挨拶
- 7 議題

(1) 岡崎市観光基本計画アクションプランの令和元年度の進捗及び令和2年度の事業予定について【資料1】

事務局から説明

質疑応答

(委員)

昨年の資料と見比べて、「岡崎市観光基本計画アクションプラン(以下アクションプラン)」の「具体的な取り組み内容」や「施策実施年度」等、計画の内容が変わっている部分がある。計画が変わった際にそれがなぜ変わったのか、その理由が資料の中に記載してあると良い。また施策の実施、達成に対する定性的、定量的な条件がないと分かりづらいのではないか。

計画達成のための具体的な目標を設定し、本当に今年やらなければならないことは何なのかを記載してあると分かりやすい資料になると思う。

(事務局)

資料の内容については簡略化して表示してあるため、その補足を口頭にて説明させていただいた。観光関連の取り組みが市全体で多岐にわたっており、全てを資料に載せることは難しいが、わかりやすい資料の作成に努めていく。

(委員長)

行政評価はやったかやらないかで評価されることが多い。ここで数字を書き上げるといった特異性を持つのは行政の中で数少ない課のひとつだと思う。岡崎

市のように、課を横断しての取組みを含めて、観光推進課が把握し、調整しているという例は他の都市では見受けられない。そういう意味ではすばらしい取組みをしていると思う。ただ先ほど指摘があったように、数字として出せるものと、単に事業が終了したものとを整理し、分けて書き上げた方が、成果がより市民に伝わりやすいのではないか。

(委員)

資料を見るとやってほしいことは網羅してある。資料全体として達成率のようなものを数字で表してあるともっとわかりやすくなると思う。

3月末でまちバスの路線が一部廃止になることを受けて、岡崎市の北方(大樹寺や真福寺、滝山寺等)を周回するバス路線があると良いと感じた。

(委員長)

2次交通の問題はどの都市も抱えている。今年の通常国会の閣議報告で、白タクを観光客にも認めていくとあった、仮にそういったものが法律で認められた場合、例えば岡崎市が実施条例を作り、高齢化の進むタクシー業界の補完をするという手段が考えられる。2次交通の問題はなかなか解決しないが、どのようにしていくべきかという議論を民間からも投げかけていくことが必要ではないか。

(委員)

観光基本計画推進委員会には昔から携わっている。資料については、様々な課にまたがった事業を、観光推進課が束ねていることがよくわかる。

(委員)

大学生の娘がユーチューバーをよく見ている。私はあまり見たことがないが、若者の間ではSNS等を通じて浸透してきており、大きな影響力を持っていると感じている。

(委員)

「資料1」は体系図とあるが、体系図であるならばそれぞれの施策が次はどこにつながっていくのか可視化してシナリオ通りに進んでいるか確認する必要がある。いただいた資料では、実施施策がどこにつながるのか考えて読み解く必要があるため少し難解に感じた。

(委員長)

関連番号だけでも振ってあるとわかりやすくなるかもしれない。対応を検討してほしい。

(2) 重点プロジェクトの進捗状況について【資料2】

事務局から説明後、質疑応答、意見交換

(委員)

資料の中に「重点プロジェクト」とあるが、これは毎年やることなのか。また「アクションプラン」の終了時点でこのプロジェクトは終わるのか。プロジェクトとして、一定期間集中的に事業を行うという認識でよいのか。

(事務局)

「重点プロジェクト」は「アクションプラン」の期間である平成 29 年度から令和 2 年度までの期間で重点的に取り組むものとしている。また、「アクションプラン」の終了年度が各プロジェクトにおけるひとつの区切りとなるが、必ずしも各プロジェクトの取組み自体がそこで終了するわけではない。

(委員長)

観光というものは毎年成果報告を出して数字を追いかけていくものだが、観光業以外の、住民を相手にしているような施策は、期限を切らずにやったこと自体を評価するものが多い。このような施策を「重点プロジェクト」にとり入れることは大変だったと推察するが、毎年数字を追って行っていくという観光的な考え方を教育委員会等の担当部署に伝える努力をしてはと思う。そうすれば観光関連のメンバーからするとわかりやすくなる。

(委員)

「桜城橋」が完成し、「籠田公園」までの道が整備されるが、特に「QURUWA」と「リバーフロント地区」等の整備をどのように民間事業者と進めていくのか、方向性を示していただきたい。

(事務局)

「桜城橋」は、市としては橋ではなく川の上にある公園という位置づけをしている。その公園を管理する事業者を民間から募集し、そのことによりにぎわいを生んでいく形を考えている。もちろん行政も関与するが、基本的には民間事業者の主導で橋を活用していく。

また、「桜城橋」は公園という位置づけのため、橋上に建造物を建てるような構造になっている。橋を管理する民間事業者が決まり次第、そこと連携して事業を進めていく。

(委員長)

「大阪城公園」の例は P F I の活用がうまくいった事例なので参考にされてはどうか。今後の動向に期待したい。

(委員)

「殿橋テラス」にあるカフェは来年度以降も営業するのか。

(事務局)

堤防等の河川の機能を害さない範囲で常設化に向けて整備を進めている。

(委員)

現在のカフェは、仮設ということもあり閉店後に店内の備品等が見えてしまい、汚い印象を受ける。閉店後もクリーンな運営を心掛けてもらいたい。

(委員)

ユーチューバーについて、去年、「大樹寺」にも「東海オンエア」の立て看板を設置した。結果、全国からファンの若い女性が毎日のように訪れるようになった。若い女性のパワーはすさまじく、流行りは女子高生が作るという逸話

を痛感する事例だった。看板が撤去されると、それに伴い若い女性あまり来なくなってしまった。

プロモーションの展開の中でも、翌年度以降の実施予定がもっとも大切な部分ではないか。事業の継続性という意味でも、この中からピックアップして今後も発展させていくのが良いと思う。

(事務局)

「東海オンエア」の立て看板の設置については非常に反響があり、定期的に設置場所を変えている。その場所をSNS等で告知することで、客足を誘導している。まずはそういった事情があるということを理解いただきたい。

若い女性は我々としてもターゲットにしている。ユーチューバー等の若者に人気なコンテンツを提供し、まずは岡崎に来ていただく。そのうえで岡崎を知ってもらい、寺社仏閣、城、お土産等にも興味をもってもらおう。そういった方々も時間がたてば興味の対象が変化し、自ずと岡崎の歴史文化にも興味がわいてくると思う。その時に改めてまた岡崎に来てもらおう。そういった考え方でプロモーションを進めている。

また、大樹寺にも客足が向かうようなしかけを考えていきたい。

(委員長)

今の話を受けて、現在、京都のある寺では学生ガイドが参拝者への案内を行っている。彼らは参拝者を案内する際、本堂でまず自分が座ってお参りをする。すると参拝者もそれに続いてお参りをした上で案内を聞き始める。

ぜひ岡崎市のユーチューバーにもお参りをすることの重要性を励行してもらうことを試してはどうか。

(委員)

補足だが、「大樹寺小学校」の6年生が「大樹寺っ子ガイド」という、各拝観のコースで説明をするという取り組みがある。子どもたちの説明はたどたどしいところもあるが、とても分かりやすい説明をしてくれて参拝者からの評判も良い。市内の観光地でもっと子供たちが活躍できる仕組みがあっても良いと感じた。

(委員)

弊社の取り組みとして、今年度は岡崎の桜を強力的に売ろうという取り組みがあり、ポスターを日本語、英語、ベトナム語、タイ語の4か国語で作成している。花を愛でるという文化は東南アジアの方に非常に刺さる。限られた資源をどこに向けるかという観点で今年度は定住のベトナムとタイの方に絞ってポスターを作製した。

「重点プロジェクト」についても、費用はかかるがターゲットをどこか具体的に狙って、外れればどこか他のターゲットを狙うという取り組みも良いと思う。

(委員)

イベントと行事の切り分けがきちんと整備されていると分かりやすい。

岡崎は家康公生誕の地。インバウンドを考えたとき、生誕の地というだけで人が集まるのか。世界でも類まれな 264 年の太平の世を築いたという部分で外国人観光客を呼び込む仕掛けができないかということ最近考えている。イベントや行事、観光伝道師等しっかり整理して取り組んでいってほしい。

(委員長)

外国人や若者は我々と違う価値観をお持ちなので、何がきっかけになるかわからないというところはあると思う。是非その価値観をうまくくみ取って、取り組んでいってもらえたらと思う。

(3) 令和元年度版観光白書の概要について

岡崎市観光基本計画アクションプランの改定について

【資料3、資料4】

事務局から説明後、質疑応答、意見交換

(委員長)

観光の動きというのはとても早く、特にここ数年は急ピッチでインバウンド客に対応したというところもあり、とるべきアクションも大きく変わってきた。

観光に係る利害関係者。大きく3つある。我々はどこに力を入れていけば岡崎市を観光産業都市とすることにつながるのかということをしっかり議論していかなくてはならない。産業化というのは観光消費を高めていくこと。消費を促すために、住民の皆さんを観光産業の一員になってもらうことを考えなくてはならないかもしれない。どこに力を入れていくのか、今までの流れを踏襲する部分と新たに変わっていく部分をはっきりさせていく。先ほど指摘のあったプロジェクトには期限があるという指摘を踏まえて考えると、必ずしも項目にあるものを見直すということだけでなく、今の環境にあったものは何なのかという部分にも取り組んでいかなくてはならない。

他の視点でも結構ですので、何かお気づきの点があれば、来年度に向けて議論の進め方などについて委員の皆さんから意見を伺いたい。

(委員)

資料から、宿泊客数が伸びていないという部分については宿泊事業者として責任を感じている。インバウンドだけでなく国内の観光客についても何とかしたいと考えている。

(委員)

観光を岡崎市の産業としていくなら、インバウンドも含めてもっと業界全体が盛り上がっていく必要があると思う。また皆さんと知恵を出し合いながら取り組んでいきたい。

(委員)

観光も商品なので誰に何を売るのかという話になる。弊社でもある新商品がなかなかうまく売れない時期があった。昨年度から、観光推進課が言うように

若い女性をターゲットに定めたところ、売れ行きが少し上向いたということがあった。資料にある岡崎市の取組みもきちんとターゲットを絞って、これは誰に売るといふ部分をもう少し明確化していくと良いのではないか。

(委員)

施設入込客数については、どのようなカウントの仕方をしているのか。

(事務局)

入込客数については、各施設から聞き取った数字掲載させていただいている。そのため、各施設が実際にどのようなカウントの仕方をしているかは存じ上げない。無料の施設が多いため、各施設の正確な入込客数の把握については課題となっている。

(委員)

岡崎市はイベント民泊のようなものを推奨する予定はあるか。

(事務局)

現時点で既存の宿泊施設が足りていないという状況には達していない。また民泊設置の許可権限が県から移譲されていないため、市としては県の動きを見ている状態。

(委員)

岡崎市北部の観光施設入込客数が減少傾向にあるようだが、この地域の観光に対して岡崎市は何かビジョンはあるか。

(事務局)

その地域には将来的にスマートインターチェンジが整備される計画があり、そこが岡崎の北の玄関口になると考えている。具体的な計画策定はこれからになるが、岡崎北部にある「おかざき農遊館」をリニューアルし道の駅のような形に整備し、そこから付近の施設へと観光回遊導線を描く構想を持っている。また、「自然体験の森」、額田地区の「わんパーク」、「ホテル学校」を指定管理にし、民間の新たな雇用を生み出すといったことも考えている。

(委員)

今後の取組みに期待している。

(委員長)

最後に各オブザーバーからも本会議の議題について意見を頂戴したい。

(オブザーバー)

これまでの3年間の取組みを拝見し、とてもよく事業をまとめられていると感じた。

資料1はなかなか読み込むのが難しい。観光推進課としての取組みと、その他の課による取組みをもっとわかりやすく示してあると良いと思う。

桜城橋についてだが、川に橋をかけるというのは大変な事業だと思う。ただ市民目線から見ると、観光の事業ならばもっと早く実施すべきだという意見がわいてくるため、観光部門で実施している事業とそうでないものを資料の中でわかりやすく示してあると誤解がなくて良いように思う。

資料の中で市民満足度の数値が 33.8%でとても低いように見受けられるが、これは岡崎市全体として満足しているかということなのか、岡崎市の観光事業に満足しているかということか、どちらなのか。

(事務局)

市民満足度については企画課が実施している調査結果から転用して掲載している。設問としては岡崎市全体としての満足度を問うものだったと記憶している。

(オブザーバー)

議論に挙がっていた目標をどこに設定するかという部分についてだが、愛知県観光協会はプロモーションに特化した団体であり、愛知県内の方が県内を周遊するというプロモーションの他、日本全国、ひいては東南アジア、ハードルは高いが欧米諸国からも愛知県に観光客を呼び込めるように取組みを進めている。

例えば南知多町は近隣県をターゲットとして愛知県観光協会のプロモーションに参加している。岡崎市もプロモーションを実施する際どこをターゲットにしているかということが施策の中でもっと可視化されてくると良いと感じた。

(オブザーバー)

「岡崎市観光協会」としては当初から観光推進課と連携して事業を行っている。今年度から始めた重点プロジェクト5の記載については、初年度ということもあり評価軸が定まらず、なかなか記載が難しいところがあった。1年間事業をやったことでいろいろな数値が見えてきたため、それをもとに次年度以降の資料に反映させていこうと思う。

事業のターゲットについてはいろんなジャンルのターゲットがあり、資料には書ききれていないが、きちんと絞り込んで事業を進めているのでご理解いただきたい。

「岡崎市観光白書」の観光入込客数についてだが、各施設を訪れた観光客の数をカウントするだけでなく、その方がその後どこに向かったのか。回遊ルートが見えてくれば、新たに観光客を呼び込まなくとも、一つの施設を訪れた観光客を回遊させることで対策が打てる。ビッグデータなどなんらかの形で情報が得られないか。この中から生まれた課題が整理できると「岡崎市観光白書」を公表している意味も生まれてくると感じる。

(委員長)

以上で議題は終了となるため、事務局にお返しする。

(事務局)

以上で令和元年度第1回観光基本計画推進委員会を終了する。

8 閉会